

風水害から身を守るために

これからの時期は、台風や雷雨、梅雨期の長雨や大雨により災害の危険度が高まり、風水害や土砂災害が発生するおそれがあります。

風水害や土砂災害などの自然災害の被害を最小限に食い止めるには、日ごろから気象情報に注意し家の周りの危険箇所の確認や、非常持出し品の準備など、事前に効果的な備えをしておくことが大切です。

●問い合わせ 総務課危機管理室 ☎53-2111 (内線3141)

今一度確認してほしいこと

- 自宅や職場、通勤・通学経路など身の回りの危険をチェック

山の近くでは土砂災害（崖崩れ、土石流、地すべり）、低地や河川、水路付近では浸水、扇状地や埋立地は液状化の恐れがあります。

危険箇所や避難方法、防災情報の入手方法は、対象地域の各世帯に配布されているハザードマップをご確認ください。

- 避難場所までの避難ルートをチェック

避難場所までの安全なルートを確認しておきましょう。避難するのが日中とは限りません。「夜間の場合はこのルートが安全か」「豪雨災害時は冠水しないか」「土砂災害に巻き込まれる可能性はないか」など、事前に確認しておきましょう。



また、完全に避難できないと思われる場合は、少しでも安全な場所にとど

まり、無理な避難はやめましょう。

- いつもの生活の中に「備蓄」を取り込む

備蓄や非常食というと乾パンを思

い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

最近では、普段口にするレトルト食品やお菓子が保存用として販売さ

れていますので、お店などで確認してみましょ



非常時に普段口にしないものを食べるより、自分の好きなものや馴染みのある味のものを食べることで、精神的に落ち着くこともあります。

また、缶詰やレトルト食品などを普段より多めに購入しておくことも大切です。それを災害用と考えず、普段のストックを少し多めにする感覚で購入しておく、消費したら買い足すということ（ローリングストック法）を続けていくことで、自然と備蓄を生活の中に取り入れることができます。

防災情報を得るために

「むらかみ情報ねっと」

に登録しましょう

携帯電話やパソコンに防災、防犯、火災などの情報をメールでお知らせします。(登録無料、受信費用は自己負担) 下記のURLまたはQRコードから登録できます。
<http://www.city.murakami.lg.jp/mobile/mailmaga/>



※迷惑メール対策により、受信できないメールアドレスが増えています。今一度「city.murakami.lg.jp」のドメインからメール受信できるように設定の確認をお願いします

地域の防災力アップに 楽しみながら、ゲーム感覚で学ぶ 出前講座の活用を

町内会やPTA行事などおおむね10人以上の会で、地域の特性にあった災害対策や準備方法を楽しみながら学べます。

料金は無料です。

メニュー

- 想像力を高めて「もしも」に備える～クロスロード～
・楽しみながら災害対応力が身につきます。
(90～120分)

- 避難所運営ゲーム
・避難所で起こるさまざまな出来事に、どう対応していくかをゲーム感覚で模擬体験することができます。
(90～120分)



●申し込み 総務課危機管理室 ☎53-2111 (内線3141)

□ 安否確認の方法をチェック

災害発生時に家族や大切な人と一緒にいるとは限りません。災害時は、電話回線が混み合っており、すぐに連絡がつかない場合があります。あらかじめ、安否確認の手段を話し合っておきましょう。

災害用伝言ダイヤル(171)
安否情報を録音することで、全国どこからでもその音声を再生(確認)することができます。

災害用伝言板(WEB171)
<https://www.web171.jp>
パソコンやスマートフォンから電話番号を入力して安否情報の登録、確認を行うことができます。

また、ツイッター、フェイスブック、無料通話アプリなどたくさんある連絡手段のうち、どの手段で連絡を取り合うのかを事前に話し合っておくことも大切です。

風水害に備えて、家屋の浸水対策を

雨が降っている時や浸水後に土のうを設置しても、防水や排水の効果は期待できません。過去に浸水したことがある場所は、近所で協力して事前の浸水対策をお願いします。

人命に関わる被災現場を除き、市

から個々の家屋への浸水対応(土のう配達など)は行いませんので、各自で土のうなどを準備してください。

災害時の役割(自助と共助)

災害が発生したときは、自分の命は自分で守る『自助』が基本となります。自分が助からないと、大切な人を助けることはできません。助けに来た人が二次災害にあう可能性もあります。自分の身は自分で守れるようにしましょう。



また、隣近所や地域で助け合っ『共助』がなければ助からない場合があります。

日頃から隣近所で声を掛け合っ、災害時に助け合える人間関係を築いておきましょう。

また、地域に自主防災組織がある場合は、積極的に参加するようにしましょう。

大規模災害に対する意識が高まっている今こそ、自分自身の防災ときちんと向き合っておくことはとても大事なことです。